久喜市 男女共同参画情報紙

そよかぜ

SOYOKAZE

第16号

2026年3月発行

いよいよ女性の輝く時代へ！

2025年、日本初の女性首相が誕生しました。政治分野での後退が大きく影響していたジェンダーギャップ指数も上がることが期待されます。また、4月からは女性活躍に関する情報公表義務が拡大されます。

今回は、映画監督・演出家として活躍されている久喜市出身の塚原あゆ子さんに、作品作りへの思いと、男性が多い業界で活躍の場を切り開いてきたエネルギーあふれるお話を伺いました。

特集

p.2-p.3

久喜市くき親善大使

塚原あゆ子さん

にインタビュー！

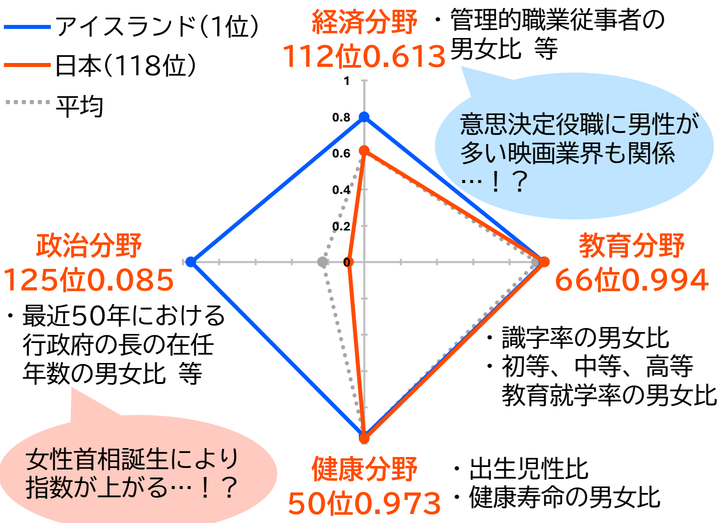
日本のジェンダー格差は148国中118位

ジェンダーギャップ指数は、世界経済フォーラムが毎年公表している、各国の男女間の格差を表す指標です。指数は4分野で評価して、0から1の範囲で表され、1に近いほど男女平等であることを意味します。

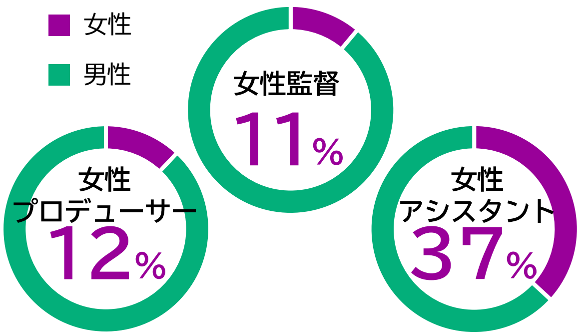
2025年日本の総合指数0.666は、148国中118位で男女間の格差が大きいことを示しています。政治分野では国会議員や閣僚の女性比率の低さ、経済分野では同一労働における賃金格差や女性管理職率の低さが順位を押し下げる主な要因となっています。特に政治分野は0.085と極めて低く、女性の政治参画が著しく遅れている現状です。

2026年4月に女性活躍推進法が改正され、男女間の賃金差異、女性管理職比率の情報を公表する企業が拡大されます。今後、政治、経済分野での女性参画が進み、ジェンダー平等の実現に向けて前進していくことが期待されます。

各分野での日本の順位と指数（2025年発表）



参考：世界経済フォーラム、内閣府男女共同参画局



出典：日本映画業界の制作現場における
ジェンダー調査2023冬

映画業界もジェンダー格差が深刻？

私たちを楽しませ、疲れた心と体を癒してくれる映画やドラマの制作業界においてもジェンダー格差の問題が指摘されています。

2022年劇場公開された日本映画作品の制作現場の女性比率は、プロデューサー職（意思決定役職）12%、アシスタント職37%となっています。全体に占める女性の割合は低く、特に意思決定役職に女性が少ない状況です。また、監督においては613人のうち女性は68人で、2021年と比べて1ポイント減の11%と改善が進んでいない結果となっています。

NEXT　久喜市出身で活躍する女性の塚原あゆ子さんにインタビューしました！

Q&A 久喜市出身の女性が活躍しています！

映画監督・演出家　久喜市くき親善大使

塚原　あゆ子さん

◇久喜小学校、久喜中学校出身

主な監督・演出作品

◇ドラマ『Nのために』(2014)
◇映画『コーヒーが冷めないうちに』(2018)
◇ドラマ『MIU404』(2020)
◇ドラマ『ザ・ロイヤルファミリー』(2025)

主な受賞歴

◇東京ドラマアウォード2018演出賞『アンナチュラル』
◇報知映画賞監督賞･日本アカデミー賞優秀監督賞『ラストマイル』
◇東京ドラマアウォード2025演出賞『海に眠るダイヤモンド』

01 どのような経緯で監督になったのですか？

制作会社に入社し、助監督という修行のような期間が約10年ありました。助監督をしているうちに、「女の人も監督をやってもいいのではないか」と日本や業界の状況が緩やかに変わっていきました。そのタイミングで私の企画が通りはじめ、いつの間にか監督になっていました。

私が制作会社に入社した頃は女性の監督は皆無でした。現在も女性の監督は少なく、10分の1程度です。

02 監督を続けるうえで苦労したことや心がけていることは何ですか？

企画書を通すことが一番難しいです。例えば、私が手がけた連続ドラマに1本1億円のものがありますが、「私の価値が1億円なのか」ということをプレゼンしなければなりません。去年の私の働きや獲得した賞、企画書の精度、私の名前で集まったキャスティングなど、何のためにお金を払ってもらえるのかという自覚を忘れないことを意識しています。企画が通らなければ監督にはなれずただの人になってしまうので、いつも選挙をしているような感じです。

03 監督として意思決定のこだわりや現場と向き合うときに大切にしていることは何かありますか？

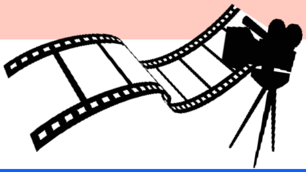
現場で生まれるものが大事ですかね。現場でできあがったお芝居と、できあがった場所のその時のコンディションで生まれるものに左右される撮り方、意思決定をしていきたいなと思います。

あと、大事にしているのは挨拶ですね。現場には300人近くいることもあり、様々な場所に散らばっているので、かなり気を付けないと挨拶もせず1日が終わってしまうので、なるべく多くの人に「おはよう」「さよなら」と言えるといいなと思っています。その他には、台本をどのくらい読み込んでいるか、次の仕事があるかなど、俳優さんごとに今どのような状況にいるかを把握して接し方を細かく変えています。

04 時代が変化し、働きやすくなったことはありますか？

セクハラやパワハラが減ったことですかね。入社した時はそういうものだなと思っていました。今はもちろん叩かれませんし、セクハラもほとんどなくなっていると思います。みんな気を付けているし、やってはいけない理由も理解できているので、今は本当に働きやすいです。

また、労働時間も以前よりは「ずっと働く」ということはないです。チームに分けたり、スパンを設けたり、基本的に休みをちゃんと取ろうという意識もありますし、長い時は交代しています。



制度を知ろう

なるほど！
厚生労働省に認定されると
企業イメージの向上、
優秀な人材の確保、
公共調達における加点評価
などのメリットがあるんだ！

女性が活躍しています！

「えるぼし」認定
「女性活躍推進法」
による女性の採用比率、
管理職比率、平均勤続
年数などを評価して
認定されます。

▲改正女性活躍推進法について

05 映画界でジェンダー格差をなくしていくために、どのようなことが必要だと思いますか？

妊娠・出産で戻ってくることができる環境はありますが、旦那さんとイーブンに分担ができているという人の数が少ない可能性があります。単純に今ある現状を打破しよう思ったら、半分まで数を増やすだけだと思います。監督の男女の数が半々になれば、自然と緩やかにジェンダー格差ややりづらさはなくなっていくのではないかと思います。

また、今回のように取材を受けて、女性の監督がいるのだと思わせないと女性が監督になろうという常識がなくなるので、動けたらいいなと思います。

06 映画界で働く女性が抱える悩みは何ですか？

映画業界に限らず、やはり出産育児。自分の持つカードでどうやるかであって、それは男性でもいえると思います。全員にぴったりのシステムはなくて、「茨の道」となって、だんだん皆がどうやったら何ができるのかを理解した先に「本当に女性が仕事をしやすい現場」っていうものが生まれるわけで、まずは「茨の道」を何人歩くかっていうことで調整していくしかないだろうなと。「離れる」ことが前提となった時に「私は戻りたい」と主張していいんだという土俵は揃えておきたいです。

07 制作現場で女性だからこその成功談や失敗談はありますか？

現場で着る服装。スカートではなくズボンでなければいけないと思っていました。それは失敗したなと思います。女性の進出を1・2年遅らせたかもしれないなと思います。公衆の面前でしてはならない格好ではない限り、仕事がしやすい服装であればどのような服装でもその人の自由であるはずなのに、男性が多いばかりに「こうじゃなきゃいけないんだな」と思っていました。

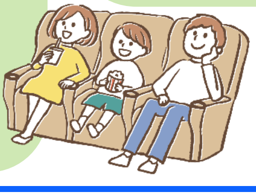
だから「女性」であることではなく「個人」であることを主張していく、「私であることが第一」になるような立ち振る舞いや話し方をしていきたいです。

08 今後どのような作品を作っていきたいですか？

沢山の人が面白くて、毎日楽しいと思えたらいいですね。例えば、日曜のドラマを見て、月曜の職場のランチの時に「見た見た！」とドラマの話で時間が潰れるということや、「あと何日でまた続きが見られる」とウキウキされるようなことが嬉しいです。映画の場合は「〇〇ちゃん達と△△観に行く」というイベントになるということも楽しいと思うので、そういうことを沢山の人に提供できるような作品を目指していきたいなと思います。

09 これまで塚原さんを支えてくれたものは何でしょうか？

私自身が映画やドラマ、小説など何かを見るという文化が好きで、休みの日に「気持ちを切り替えるぞ」となると映画を観に行ったり、小説を読んだりします。それを「誰かが書いてくれている」ということが私にとっての支えです。私一人が映画やドラマを作っているのではなく、誰かの余暇のために必死になっている人たちが他にもいて、それで私も癒されるということが支えになっています。



10 久喜市への思いや、若い世代へのメッセージをお聞かせください。

久喜提燈祭りが素敵ですよね。伝統が残っているということは本当に素晴らしいことなので、これからも地域の繋がりとしてぜひ続けてもらいたいなと思います。都心に出るアクセスもよくなっていて、いい場所にある土地で住みやすい街になっていっていると思います。だから皆さんが場所を愛して、梨などの農産物も含めてPRもしながら街全体が活性化するようなやり方を模索できたら素敵だなと思います。何か私にできることがあれば、やっていきたいなと思います。

市ホームページにてインタビューの番外編を公開中！

「くるみん」認定

「次世代育成支援対策推進法」に基づき育児休業取得率や労働時間、子育て支援制度の導入状況などを評価の対象とし、厚生労働大臣が「子育てサポート企業」として認定する制度です。

▲厚生労働省ホームページ

埼玉県も「埼玉PX大賞」で男性の仕事と育児の両立を応援しています。

▲埼玉県ホームページ

職場も家庭も脱ワンオペ

共育（トモイク）プロジェクト

　厚生労働省が進めてきた「イクメンプロジェクト」により、2024年度の男性の育児休業の取得率は４割を超え過去最高となりました。一方、育児休業の取得期間は**約4割が2週間未満**と短く、家事・育児がひとりに偏っている「ワンオペ育児」という課題があります。
　そこで厚生労働省は、「イクメンプロジェクト」を「共育プロジェクト」にリニューアルしました。男性の長時間労働や職場風土の改善などを企業に働きかけ、職場も家庭も誰かひとりで負担を抱え込む「ワンオペ」から脱却し、男女問わず希望に応じた仕事と家事・育児の両立ができる「共に育てる」社会の実現を目指すものです。今後は、多くの企業が「共育て」しやすい環境作りに取り組むとともに、育児は女性といった男女の性別役割意識を変えていくことについても期待するものです。

▲共育プロジェクト
ホームページ

～　性別や年齢にとらわれることなく、互いに理解し合いましょう　～

LGBTQ+専門相談案内

■にじいろ県民相談（埼玉県性的マイノリティ県民相談）
性的指向や性自認に関する悩みについて、県民の方が無料で相談できる相談窓口です。
☎ 0570-022-282
LINE　https://lin.ee/KDRR4QM
◎毎週土曜日（年末年始を除く）18時～22時

■埼玉弁護士会　LGBT法律相談（電話相談）
当事者だけでなく、その家族や雇用主、担任教師などの相談にも応じます。（相談無料、匿名相談可、予約不要）
☎ 048-861-0901
◎毎月第１・第３水曜日（祝日・年末年始を除く）
10時～12時・13時～16時

■よりそいホットライン
（一般社団法人社会的包摂サポートセンター）
どんなひとの、どんな悩みにもよりそって、一緒に解決する方法を探します。（相談料・通話料無料）
☎ 0120-279-338 ガイダンスに沿って「4」
FAX 0120-773-776（聞き取りが難しい方）
◎24時間年中無休

女性の悩み（カウンセリング）相談

　「女性の悩み相談」では、配偶者等からの暴力に関すること、家族・夫婦に関すること、自分の生き方や人間関係等、女性の様々な悩みや心配事について相談できます（**要予約**）。相談の費用は**無料**です。
　また、相談に関する秘密は固く守ります。

相談日程　第1・第3金曜日
　　　　　面接、電話、オンライン相談
対　　象　市内在住・在勤・在学の女性
詳細は右記2次元コードからご確認ください

男性のための電話相談

　職場の人間関係、家族・夫婦についてなど、様々な悩みについて相談できます。

相談日程　第1・第3日曜日　11時から15時
対　　象　埼玉県内在住・在勤・在学の男性
電話番号　048-601-2175
詳細は右記2次元コードからご確認ください。

編　集　後　記

「そよかぜ」は、市民ボランティアの編集員の方に企画・取材・編集していただいています。

　40年近く前、宿泊を伴う勤務の前日、2歳だった子どもが発熱。夫が緊急に仕事を休み対応。当時、突発休暇は認められず欠勤扱い、ボーナスが減額されました。今年度、男女共同参画について学び、「今は男性の育児、介護休暇があってよかった！！！」と思いました。（荻原節子）

　放送翌日には全世界に配信される今日のTV界では世帯視聴率は絶対的指標ではなくなった。TV離れと言われるが多様な配信サービスも含めれば決して離れていない。撮影現場でドラマの方向性を決めるのは独断ではなく合議だ。大事なことは挨拶。インタビューは予想外れの連続だった。（小瀬誠）

　困難に対して立ち向かっていく、というより、その都度状況に合わせてベストを尽くしていく－それが塚原あゆ子さんの生き方なのだとインタビューをして思いました。積み重ねによって課題を解決していくその姿勢を私たちも学んでいきたいと思います。（竹之内俊子）

　塚原さんが制作現場ではスカートではなくズボンでなければいけないと思っていた失敗談は、現社会に残る「育児や介護は女性がするもの」といった古い価値観と重なりました。勘違いに早く気づき女性活躍の更なる後押しが社会全体でできるよう切に願うものです。（中村和孝）

編集員募集中‼

　男女共同参画や情報紙づくりに関心のある皆さん、一緒に情報紙を作ってみませんか？
　詳しくは人権推進課へお問合せください。

◆発行／久喜市 総務部 人権推進課
〒346-8501　久喜市下早見85-3
メール：jinken@city.kuki.lg.jp
電話：0480-22-1111（内線2322・2325）
FAX：0480-22-3319

男女共同参画情報紙「そよかぜ」のバックナンバーはコチラから
ご覧いただけます。

久喜市は、お互いを認め合える社会を築くため、「人間尊重・平和都市」を宣言しています